

お忙しくても、約2分間で読めます

山内公認会計士事務所

ハートフル・ワード (心からの言葉)

TEL 098-868-6895
FAX 098-863-1495

経営者への活きた言葉

イノベーションを生み出すには「経路依存症」からの脱却が鍵

入山 章栄 (早稲田大学ビジネススクール教授)

1. イノベーションを生み出すには「経路依存症」からの脱却が鍵となります。経路依存症とは自由な発想や行動を縛る、過去の経緯や歴史を背景にしたしがらみや成功体験のことです。日本企業の97%が中小、かつほとんど同族企業です。社外で様々な経験を積んだ後継者が代替わりして経営者となり、途端に急成長する例がよく見られます。
2. ここでは長年続けてきたビジネスに外部の発想や手法が組み合わさって、新たな展開が開かれます。イノベーションは幅広い経験と知見、価値観を持つ多様な人材が集まり、異質な和が融合してこそ生まれます。そして多様な人材を採用し活躍してもらえば、働き方も多様でなくてはなりません。
3. 特に中堅・中小企業にはチャンスが大きいと思います。小回りが利き、トップダウンで労働環境の改革を進めて経路依存性を外しやすいからです。日本の産業を活性化させるうえで中堅・中小の覚醒は不可欠です。

(参考:「日経ビジネス」2022年6月27日号)

経営者のための理念・哲学

実行するは我にあり

1. 実行するは我にあり。誰の言葉かは知らない。かつて何かの折に出会い、心に深く留めてきた言葉である。人生は自分が実行しなければ何も始まらない。実行は人に代わってもらうわけにはいかない。実行を離れて人生はない、ということを端的に示した言葉である。
2. 平澤興氏(京都大学元総長)の言葉が思い出される。「何よりも大切なことはあくまで自己との約束を守り、一度やろうと決心したことは必ずやり通し、決して自己を欺かぬことである。これさえできるようになれば、もう人生は自分のものである。こうも言う。「賢いことを言うだけではだめである。実行できなければ何にもならぬ。結局、実行により成就する」以て銘としたい。

(参考:「致知」2022年9月号)

ワンポイント経営アドバイス

会社と社員との間に重なりがあるか

伊藤邦雄 (一橋大学CFO教育研究センター長)

1. 日本企業で理念のない会社はほとんどありませんが、それが額縁の中に収まっているだけの会社と経営陣と社員間で活発な議論する会社があります。日本企業の多くはメンバーシップ型雇用のため、入社した際に一度説明を受けたら「あなたはメンバーなので理解していますね」としてそれ以上議論はしません。
2. しかし、本当の意味で理念が浸透している状態というのは、会社の存在意識と社員一人ひとりの存在意義との間に重なりがある状態のことです。経営陣は、手を替え品を替え理念を説きつつ、この重なりを確認するための議論や対話を心がけ、つねに社員に共感してもらうことで、会社全体のエンゲージメント(社員の成長・定着)を高めていく必要があります。

(参考:「週刊東洋経済」2022年7月23日号)

古典に学ぶ

師弟関係は乱れている

(解説) これは一面より観れば、学科の制度が昔と異なり、多くの教師に接する為であろうが、総て今の師弟の関係は乱れている。同時に教師もまたその子弟を愛しておらぬという嫌いもあるのである。

(参考: 渋沢栄一「論語と算盤」: 国書刊行会)